

# 業務改善プロジェクトチームについて

本年1月より、13の資金分配団体の有志20名程度が参加。業務フローの改善、助成システムの操作性の向上、具体的機能改善などを検討。3月からは、5つのチーム（制度、評価、資金管理、規程・契約、活動管理）に分かれて課題の洗い出しと改善の方向性の検討に着手、継続的に協議を実施。

〈参加13団体(五十音順)〉

公益財団法人 お金をまわそう基金・公益財団法人 佐賀未来創造基金・一般財団法人 社会変革推進財団・公益財団法人 信託資本財団・公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン・一般財団法人 中部圏地域創造ファンド・公益財団法人 長野県みらい基金・公益社団法人 日本サードセクター経営者協会・公益財団法人 パブリックリソース財団・公益財団法人 東近江三方よし基金・特定非営利活動法人 ひろしまNPOセンター・特定非営利活動法人 まちぽっと・READYFOR株式会社

※JANPIAの事業運営体制を再整備することで、事業実施の質的な向上につなげるため、『**バックオフィス**』機能を確保し、公募実務や管理的業務(収支管理簿確認、年度末精算他)の一元化を図っているところ

業務改善PTでの論議を踏まえて2021年度中に対応を進める事項・進捗状況

2021年10月15日

区分(チーム名)	大項目	対応する具体的事項	対応完了時期 ★は9月末時点で対応完了済	すすめ方
活動管理チーム	活動の情報発信と広報活動の強化	①休眠預金活用サイトやSNS等による情報発信の強化 ・社会課題の解決に取り組む団体の皆様の「活動の今」を発信していきます。今後休眠預金活用事業への参画を検討される団体への情報提供にも有効と考えています。 また、助成システムに投入された様々なデータが有効に活用されるよう、情報公開との接続を進めていきます。 ・評価の実施と、事業進捗のモニタリングの在り方などを、重複感のない形で、かつ活動の見える化や、事業改善のPDCAにつながるような形での報告等の在り方を検討をし、それらを報告様式やシステムへの入力、さらにはHP経由での情報発信へと全体感のある改善に向けた検討を進めていきます。	①それぞれ以下で対応  ★ <b>通年実施(対応中)</b> ⇒休眠預金活用サイトでの活動に関する記事の発信は毎月実施中 ★ <b>8月中の対応</b> ⇒SNS(Twitter)開設・稼働中 ※情報発信は毎月コンスタントに記事化を行い、情報発信を進めます。  2022年度中 ⇒重複入力の排除とシステム入力の目的等の検討については、2022年度中に検討を進めて実施を目指します。	・既存のステークホルダーに対しては、情報発信サイトでの記事を作成したら、資金分配団体等にメールなどで周知 今後、休眠預金事業に参画を目指している団体、当事者向けへの情報発信はSNSによる拡散を行っていきます。  ・システム入力の意義や目的については、業務改善コンサル等専門家のサポートを得て推進予定です。
		①ニュースレターの発信 ・JANPIAが、資金分配団体向けに事業実施段階において必要な手続き(各種様式など)をご確認いただきたい情報(手引き類やご案内など)を適切な時期に確認できるように定期的にご案内を发出します。 ※団体専用ページやJANPIA公式webサイトに掲載された情報のご案内をニュースレターでお届け ※事業遂行上必要な情報にフォーカスし掲載	<ニュースレターについて> ★①2021年9月より発信中! ※发出について、HP等に掲載してから2週間(10営業日)程度で文案等を作成して送付します。  ②年度内都度実施 進捗報告の様式等、都度改訂を行います。	

多くの改善項目に対し、年度内に対応する31項目について改善状況をまとめた資料を資金分配団体全体に共有(10月20日)

改善PTでの取り組み概要を休眠預金活用事業サイトに掲載(7月)

<https://kyuminyokin.info/articles/216>

改善の進捗状況の報告記事を休眠預金活用事業サイトに掲載(10月)

リンク先……

# 事業実施の質を上げていくために～ 研修、勉強会の運営

## ➤ 資金分配団体のプログラム・オフィサー（PO）人材の育成に向けての研修

各年度の採択団体のPOに向けて、各団体に応じた研修コンテンツ提供（参加者同士、講師、先輩団体のPOなどの双方向性を確保した運営）（計4-5回開催予定/21年度）

## ➤ 各種勉強会の実施

実行団体に向けた支援戦略に関する研修、評価実施に関する研修（中間評価、進捗報告）、事業完了報告時に必要となる監査実務に関する勉強会、ファンドレイジングに関する勉強会・・・（合計10 -12回程度開催予定 /21年度）

### <資金分配団体PO向け研修の骨子>



### <+ 各種勉強会について>

- ネットワーキングによる学び 事例共有
- 社会インパクト評価、中間評価
- コーチング力
- 自己資金調達力強化
- 企業連携（プロボノ・コーディネーション力）など

# 適切な資金管理とそれを支える体制確保を重視した事業運営

- 体制整備については、実行団体の規模、体制整備の実状などを踏まえて、3か年を通じて段階的に取り組み、実効性のある体制を確保（運営ルールの明確化、法人形態毎に求められる体制整備について実効性のある形で実施）
- **適切な助成金の管理を実現する体制確保は、休眠預金等活用事業において最重要事項**
- 法人の形態に応じた体制の在り方について、実効性のあるガバコン体制の整備を志向

21年度 通常枠団体向けオリエンテーション他、様々な機会を通じて周知

## 適切な資金支出管理

### 法人としての 管理会計の充実

助成金受領

日々の収支管理

年度末精算  
(証憑管理)

事業終了時精算

### 資金分配団体からの 伴走支援

会計士、税理士等の  
専門家による会計支援

専門性のあるアウト  
ソーサーへの業務委託  
⇒ 将来の自走化に向けた  
ノウハウの移転

JANPIA主催の  
勉強会の活用

資金提供契約  
締結時

事業期間中

事業終了時

## 団体のガバナンス・コンプライアンス

- ✓ 3か年を通じて**団体の実状に応じた段階的な整備**を志向
- ✓ **法人形態に応じた体制の確保**

- 団体のガバナンスに関すること
  - ・意思決定のプロセスの透明性等
- 資金の管理に関する事項
  - ・区分経理他、助成金の適切な管理の実現
- コンプライアンスに関する事項
  - ・利益相反防止・倫理
- その他
  - ・情報公開 ・リスク管理体制等

**内部通報制度を活用  
した不正抑止と事業改  
善のPDCAの取組！**

**休眠預金等活用事業を通じて、事業終了後も社会の諸課題に持続的に取り組める体制・組織基盤の確保へ**

# 総合的な評価に向けての中長期的なスケジュール（見込み）

休眠預金等活用事業の実施による効果（ビフォー、アフター）を事業展開のプロセスや結果他多くのデータから検証を行う

目線：活動の担い手の組織基盤の更なる強化に向けて取り組みは進展したか？

社会的インパクト評価を導入した結果、基本方針の目指すところへ向かっているか？

## 2019年度採択事業の動きを中心に整理 ↓

